



説教要旨「力無い二振りの剣」

ルカによる福音書 22章35～38節

イエス様が弟子たちを派遣されたとき、「財布も袋も履物も持って行くな」と命じられ、弟子たちは何も持たずに町々に派遣され、神の国を宣べ伝える働きをしてきました。何も持たずに派遣されたにも拘わらず、何も不足することがなかったことを弟子たちに思い起こさせた上で、「しかし今は、財布のある者は、それを持って行きなさい。袋も同じようにしなさい。剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい」(36節)とイエス様は命じられました。しかし弟子たちは、このイエス様の命令を受けるよりも先に、すでに剣を用意していました。

自分の力で、信念、決意、覚悟を貫いて歩もうとするとき、それなしには不安であるもの、どうしても備えたくなるもの、それが剣です。実際弟子たちが持っていた剣はこの後、イエス様の逮捕の場面で抜かれ、大祭司の手下の右の耳を切り落とすこととなります。剣によって自分の身を守ろうと考えるものは必ず、その剣で人を攻撃し、傷つけるようになっていくのです。イエス様と共に過ごしながら、剣に頼って歩もうとしている弟子たちの姿が、ここに描き出されています。

剣で大祭司の手下を切り付けた弟子に抵抗を止めさせたイエス様は、切られた手下の耳に触れていやされます。自分の信念、決意、覚悟を貫こうとする私たちは、このように人を攻撃し、傷つけてしまいます。しかも結局は身を守ること、信念を貫き通すこともできず、挫折を味わうのです。しかしそうした私たちの罪と弱さを、イエス様は全てご存知でした。私たちが傷つけてしまった隣人の傷を癒してくださるイエス様は、これから起ろうとしているイエス様の逮捕と十字架の死において、ご自分の命を犠牲にすることによって私たちの罪をも赦そうとしてくださるのです。

このイエス様の救いの恵みにこそ依り頼んで生きることが信仰ではないでしょうか。そこには、剣はおろか、財布も袋も履物も何も持たなくても不足することが全くない、恐れや不安から解放された、歩みが与えられていくのです。